
別れ話（メルトの後サヨナラメルトの前の話）

kerube

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

別れ話（メルトの後サヨナラメルトの前の話）

【Nコード】

N0937I

【作者名】

kerube

【あらすじ】

ニコニコ動画の失恋メルトで別れた原因が気になると言うタグを見つけたので自分なりに考えてみました

――女性視点――

「今日ちよつと話ある。」

そういつて彼に突然呼び出された。

私は何のことだか良く分からなかったけど

「わかった。」

と答えた。

彼の声のトーンからして良い話ではないだろうと思った。

そして電車に乗り彼の家に行った。

「どうしたの？」

私は気づいてない振りをする。

「あのさ、俺と別れてくれないか？」

「え？」

「ごめん、俺もつと遠くに引っ越すんだ。だからサヨナラ。」

私の顔を見て彼が慌てる。

もしかして私泣いてる？

私は頭をかきむしった。

そのときに付けてきた花の髪飾りが取れた。

そして私は勢いよく彼の家を飛び出した。

花の髪飾りを忘れてる事に気づかず。

帰る途中心の中で

「私まだあなたのこと好きなの。でもあなたがそれを望むなら私は

自分の気持ちに嘘を付いて新しい恋を探す。」

そう言った

――男性視点――

「今日ちよつと話ある。」

そう言つて俺は彼女を呼び出した。

俺は明日引越さなければならぬ。

だからもう彼女には会えない。

俺はまだあいつのことが好きだ。

だからこそ言わなければならぬ。

「分かった。」

彼女に自分の思いがばれたかと思つた。

俺と声のトーンが似てたから。

数十分後彼女が来た。

「どうしたの？」

気づいてないふりなのは十分分かつた

「あのさ、俺と別れてくれないか？」

「え？」

「ごめん、俺もつと遠くに引越すんだ。だからサヨナラ。」

彼女は泣き崩れた。

俺は慌てた。

彼女は頭をかきむしつた。

そのときに付けてきてた花の髪飾りが取れた。

そして彼女は俺のの家を飛び出した。

花の髪飾りを忘れてる事に気づかずに。

「お前の気持ちは分かつてるけど分かつてるからこそ言わなきゃいけないんだよ。」

俺は家で一人つぶやいた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0937i/>

別れ話（メルトの後サヨナラメルトの前の話）

2010年12月30日13時59分発行